

壬生町新庁舎設計検討委員会 会議録

会議名：第1回壬生町新庁舎設計検討委員会

日時：令和元年7月24日（水）14:00～16:00

場所：壬生町役場2階 正庁

出席者：委員10名

三橋伸夫委員、横尾昇剛委員、柴崎記久夫委員、大西良雄委員、大橋幸子委員、大久保貴生委員、石井利枝委員、金子昌子委員、熊谷幸一委員、櫻井康雄委員

事務局5名

出井総務部長、増山新庁舎建設室長、葭葉室長補佐、糸川主査、古川主査
とちぎ建設技術センター（1名）

株式会社 梓設計（7名）

傍聴人数：2名

【議事内容】

1 開会

2 委嘱状交付

3 あいさつ

- ・町長あいさつ

4 委員紹介

5 壬生町新庁舎設計検討委員会設置要綱について

- ・事務局より《資料1 壬生町新庁舎設計検討委員会設置要綱》について説明

6 委員長・副委員長の選出

- ・委員長に三橋委員、副委員長に櫻井委員を選出

7 議事

（1）委員会運営に関する確認事項について

- ・傍聴許可の決定および傍聴希望者の入場
- ・会議録署名人について以下のとおり委員長より指名
【会議録署名人：2番 横尾委員、3番 柴崎委員】

（2）新庁舎建設基本設計（案）について

- ・事務局より《資料3 新庁舎基本設計の検討プロセス》について説明
- ・株式会社 梓設計より、《基本設計説明書（概要版）》について説明

【意見・質疑応答等】

委員）多目的広場について、宇都宮栃木線という交通量の多い道路に面しているという立地条件であるが、ここをどういったイメージで整備するつもりなのか。

事務局）多目的広場については現在運動場として使用されていますが、そういった形態も残しながら、災害が発生した際にはヘリコプターの離着陸場となったり、消防や自衛隊の緊急車両が参集する場所となるイメージです。平常時にはイベントなどの会場として使用することを想定しています。また広場への動線ですが、宇都宮栃木線は交通量が多く危険性が高いため直接乗り入れ

はせず、一度町道に入っただいてから敷地に乗り入れするように考えています。こういったイベントに使用するかはこれから考えていきますが、想定しているのは各種まちづくりイベントや、保健福祉センターで実施している健康ふくしまつりや、産業祭など、今は町内に分散してイベントが開催されていますが、今回まとまった面積を確保して多目的広場を整備できるため、いろいろな活用方法が考えられます。

委員) 窓口を利用するという目的が明解な場合にはスムーズな動線であることは理解した。コンセプトが「町のリビング」ということで5つのポイントを挙げており、この中で特に「安心」と「憩い」という点について集中して見せていただいたが、安心というのは災害拠点としての位置付けとしてスペースの確保という事と耐震安全性の点については非常に考慮されていると思うが、拠点としてどういう役割を担うのかというのを考えた時に、住民の方々の避難所と考えるのか、それとも住民の方々への発信の場と考えるのかで機能が変わってくるのかなと思う。住民の方々を受け入れるスペースと考えた場合に、人数をどれくらいで想定していて、ライフラインがどのように確保されているのかなど、どのような運用体制になっているのかがまず1点目の疑問である。

あとは憩いの庁舎という事で、出入口の分かり易さや、窓口や執務室といった視点についてよく入っていると思うが、「町のリビング」という大きなコンセプトを掲げており、「リビング」というのは何かというのを考えた場合に、目的が無くても集える場所なのではないかと思う。気軽に寄れる場所といった感覚で庁舎を考えた時に、それをどうやって設計で実現するのか。単に多目的に使えるスペースがあればリビングと言えるのかという点について疑問を持った。

事務局) 1点目の災害発生時の位置づけについてですが、本庁舎については防災拠点ということで、避難所という扱いではありません。庁舎は災害発生時における復旧活動、インフラ整備、支援物資の供給、そういった活動の司令塔となる役割を担います。庁舎の機能としては、非常用発電機などを備えて最低でも3日間は業務を継続できるように対応しています。先ほど避難所では無いと申し上げましたが、例えば大災害などが起きて帰宅困難者などが生じた場合には、新庁舎に一時的に収容することは想定しています。避難所については、隣接している体育館が避難所に指定されているのでそちらに避難をしていただくようになります。庁舎についてはあくまで災害対応の拠点として、情報発信や物資の供給基地という位置づけとなります。

設計者) コンセプトの3つ目の「憩いの庁舎」の「リビング」という考え方ですが、「気軽さ」というご指摘の点では、庁舎に来られる方は総合運動場から来られる方、保健福祉センターから来られる方など多種多様だと思いますが、考えているのは、例えば靴を脱いで上がれるスペース、あとは家具などはこれから考えていくのですが、ゆったりと座れるソファですとか、机があって本が読めるスペースなど、小空間の中であって多様な集い方ができるようなものを考えています。

委員) 1点目については、庁舎は発信するという役割を担うことは理解した。ただ、住民ニーズとしては新しい庁舎だと逃げ込みたくなると思うので、そういった機能は体育館の方で補完するというのをきちんと住民に伝える必要があるのではないかと。2点目については、居心地の良い環境づくりということで理解した。ただ、本当に外に出てきていただきたい人達は、障害を持っている人だったり、寝たきりに移行しそうな高齢者であったり、そういった人達を地域の中にどうやって引っ張り出すかということがこれから社会の大きな課題になってくると思うので、そういう人たちが出てきて利用できて初めてユニバーサルと言えるのではないかと思う。そういった視点も明確に分かるように織り込んでいただければと思う。

委員) 今の庁舎のこども未来課の窓口を見ていると、ベビーカーで来るお母さんや、小さい子を連れてくるお母さんが多い。今回キッズコーナーを設けているが、ある程度大きくなったお子さんはそちらにいてもいいと思うが、目を離したら危ないような小さなお子さんがいる場合には、窓口のところにゆとりのあるスペースがあるといいのかなと思う。

また、安心な庁舎ということで、壬生町も不審者情報が多いので、学生が安心して登下校できるように庁舎が駆け込めるような場所になるといいと思う。

委員) 北側に待合ロビーなどが計画されており、夏は冷房負荷についてはいいと思うが、冬の暖房負荷については何か考えがあるのか伺いたい。また、空調はタイルカーペットからじわっと噴き出して床吹き出し空調だと聞いたが、耐用年数やメンテナンスの必要性などについて伺いたい。

設計者) まず大空間の暖房負荷の軽減についてですが、一番大きなことは外部からの負荷を減らすということで、ガラス面積を最小限にしているという点が大きな特徴です。また、空調の吹き出し口は天井からではなくて、床面ということで低い位置から噴き出して、吸い込みもゆっくりと吸うことで、できるだけ居住域を有効的に空調することを考えています。また床染み出し空調にはいろいろなパターンがあるのですが、タイルカーペットの素材自体から染み出してくるものもあれば、小さい穴がたくさん開いているものもあります。それは実施設計の中で選定していくことになりますが、普通のタイルカーペットの年数とほぼ変わらずに吹き出しの性能は確保できるというのが実績としてあります。

委員) 全面がガラスではないということで、ガラスだと管理コストが高いと聞いていたのでそれはいいと思う。また、先ほど小さい子を連れてくるお母さんへの配慮について話があったが、そういった方がスムーズに歩くことができるようにスペースを確保していただきたい。

委員) 先ほどリビングのイメージということで窓口カウンターに仕切り板が設置してあったが、全部角張っていて丸みが無かった。子供や高齢者なども使うものなので、もっと丸みがあるものを取り入れた方がいいのではないかと思います。

また、駐車場や通路だが、アスファルトなどだと真夏は熱くなってしまって大変なので、材質はどのようなものを使うのか教えてほしい。

また、室内に置いては自然の風の通り道はどのように計画しているのか伺いたい。

事務局) カウンターの仕切りですが、イメージ図だと角張っていますが、実際は角がないような安全なものを使うので、その点は十分注意して計画をしていきます。

また、駐車場の材質ですが、庁舎建設委員会においても同様の話をいただいた際に調べたのですが、温度が抑えられるようなものがあるということで、金額的にはかなり高いものになると思いますが、なるべく採用する方向で考えていきたいと思っています。

設計者) 風の流れについてですが、シミュレーションをこれから行います。基本的に各部屋に窓をつけているので風の通りは十分取れると思いますが、町のリビングのスペースが一番換気を良くする必要があるのに窓が遠いということで、窓の上にはハイサイドライトを設け、ここから光を入れるということと、風を抜くということを行いますので、それで風の通り道を確保したいと考えています。

委員) 平面的に広いプランニングということで、それによるメリットがある一方でデメリットもあるのでそこはしっかりと対応をしていただきたい。

通常は庁舎だと中間期は冷房を使わない期間が多く、また災害が発生した場合に機械に頼らないで庁舎の機能を維持するという点において、現状のプランだと外部からの風を取り入れるということが非常に難しいと思われる。また、光という点についても、庁舎は通常昼休みは消灯するところが多いが、そういった場合に十分な自然光を執務室に取り入れるのが非常に難しいのではないかと。それに対して先ほど大空間の天井にハイサイドライトを設けるという解決策をお持ちであるということであったが、これについてはあえて強く申し上げておきたいが、昨今気象の変動が大きく、これまで想定していたよりも多くの風や雨が降るような状況となっており、この拝見した図面での対応だと、50年100年という長期の自然変化に対してリスクが大きいので

はないかと思うので、ハイサイドライトはやめたほうがいいのではないかと。ただもしやるとしても、これまで想定していなかったような豪雨や、また資料には基準としている風速は30m/sと書かれていたが、建築学会の委員会でもそれ以上の風速を考えなくてはいけないという議論も始まっているので、そうしたことを考えた設計というのが必要ではないか。

また、細かい点では、開口部の仕様が縦滑り窓ということで、この形式はメリットも非常に大きいのだが、一方で雨が吹き込みやすいとか、網戸が付けにくいとか、風が吹いていると外に開いてしまい身を乗り出さないと閉められないとか、個人的には難しい部分も経験しているので、この窓を使う場合に利用者側の意向も十分に考えた上で選んでいただきたいと思う。

また、来庁者用の駐輪場が西側にしか配置されていないが、学生などは自転車で集まって来ると思うので、そういったことも考慮しながら配置を計画していただきたい。

また、設計とは違うのだが、建設のプロセスにおいて、町内の子供たちが見学をするとか、碎石を投げ入れるとか、壁にイラストを描くとかいったことに携われる機会を設けて欲しい。庁舎建設という機会は滅多にあることではないので、子供たちが関われる機会をぜひ検討して欲しい。

委員) 設計コンセプトのうち安心の庁舎ということで、前提として高い耐震性を有した防災拠点であるということが必要になってくると思うが、耐震安全性の目標はI種や甲類ということで、大地震が起きても使用を継続できるレベルで考えていると思う。こういった目に見えない部分についてもきちんとお金をかけて安心性の高い建物として欲しい。また、町民の方に説明するときには、I種や甲類というのは分かりにくいと思うので、もっと分かりやすい表現にしたほうがよいのではないかと思う。

また、1階部分に窓口を集約するということがかなり広がりのある建物になっているが、万が一火災が起きた時に、小さい区画で延焼を防止するということが大切ではないかと思う。防火区画であるとか消防設備を適切に運用することで、小規模に火災を終わらせるということについても検討をお願いしたい。

また、長期的な使用に耐えうる庁舎ということで、できるだけ維持管理費を抑えることも必要になってくると思うが、1階を広くとったことで当然屋根根が相当大きくなるので、維持管理しやすい防水方法というのをよく考えていただきたい。特に1階部分の上は明かり取りを設けるといことで、形状的にも複雑になると思うので特に注意をしていただきたい。

委員) 窓口のエリアが町民の方が一番使うところになるので、特に小さい子供を連れている方や、お年寄りの方が使い易いよう、現場で実際に対応している職員としっかり打ち合わせをして設計を進めて欲しい。

また、先ほど他の委員の方から、耐震関係の基準について町民の方に説明するときにはもっと分かり易い言葉を使って欲しいという意見があったが、今回の庁舎建設についてどうやって発信していくのかということが大事ではないかと思う。高齢者の方や障害者の方が気軽に出入りできるような庁舎という意見があったが、近くの保健福祉センターの中にはみぶりんという組織があり町内のいろいろなボランティアグループが登録しているので、そちらとの連携についてや、避難所になっている体育館との連携についてなど、庁舎単独で話をするのではなく、そういったものを総合的に考えて発信をしていく必要があるのではないかと。

委員) 1階の「町のリビング」の東側の奥に大会議室があり、数十名単位の会議が行われることが想定されるが、税務課の窓口業務の繁忙期と重なった場合など人の出入りが集中した際に、来庁者の導線上に総合案内や待合ベンチ、地域ブランド発信コーナー、また構造上の柱などがあるため、かなり窮屈なように感じる。そのため、例えば総合案内のデスクや待合ベンチを可動式にしてそういった時には動かせるようにするとか、あるいは「町のリビング」の形状をもう少しゆとりを持たせるといった対応が必要ではないかと感じた。

また、断面的な話であるが、1階の西側の「町のリビング」にある共用会議室やキッズコーナーなどの上部のスペースがボックス状のデッドスペースになっているのが気になる。単純にこのスペースを削ってしまうと閉鎖的な感じになってしまうかもしれないし、かといって開口にすると負荷が増えてしまい難しい部分があると思うが、例えば北側の屋根・天井を傾斜させて容積を減らすといったことも考えられるのではないか。他の委員から豪雨への対応という意見もあったので、雨じまいを確実にするという点では勾配があってもいいのではないか。個人的には天井はフラットの方が空間としては落ち着くのは確かなので、その点を総合的に考えて、このデッドスペースについてうまく処理をしていただければと思う。

またエレベーターについてだが、フロアの面積から見れば1台でも十分なのだと思うが、来庁者だけではなく、3階に議会があるので議員の方が使ったり、職員の方も使ったりすると思うので、本当に1台で大丈夫なのかなという感想を持った。

委員) 職員の方が一日中ずっと居ることになる庁舎なので、職員が安心してゆとりをもって働けるよう対応していただきたい。また、建物の屋内の色調がどういった感じになるのか、考えがあればお聞きしたい。

設計者) できるだけ自然の風合いを使いたいと考えおり、木材であるとか、コンクリートであればコンクリートの自然な風合いを生かしていきたいと考えています。これから検討をしていく内容になるため、色調についてはまだ決めておりません。

委員) 敷地東側の県道宇都宮栃木線の丁字路になっている交差点の近くに、体育館を利用する人のための駐車場があるのだが、信号で停車している車があると駐車場への出入りが難しくなってしまう状況である。現在は交通量が少ないためそこまで問題になっていないが、新庁舎ができると交通量が増えるため駐車場の出入りに問題が出てしまうのではないか。建物も重要だが、駐車場を利用する人がスムーズに移動できるような車両の動線についても考えていただきたい。

事務局) 体育館の駐車場については新しく拡張をする予定であるため、出入り口については変更を考えています。また、新たに新庁舎への出入り口が増えるということもありますし、国体の開催も控えているため、あの周辺の交通事情は大きく変わると思います。そういったものを総合的に考えて、新たに人や車の動線を検討していく予定です。

8 その他

- ・ 7月27日に基本設計に関する住民説明会を実施予定
- ・ 7月末から概ね三週間程度パブリックコメントを実施予定

9 閉会

署名

壬生町庁舎建設委員会

委員

横尾昇岡

委員

柴崎記久夫